

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470500315
法人名	社会福祉法人 キングス・ガーデン宮城
事業所名	星谷ランチ
所在地 (電話番号)	宮城県気仙沼市宇岩月星谷16-3 (電 話) 0226-26-1320
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20年 1月 18日

【情報提供票より】(20年 1月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤	人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(20,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無 円)	有りの場合 償却の有無	有/○無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月2日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1		名	要介護2	2	名	
要介護3	5	名	要介護4	2	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	84歳	最低	72歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	村岡外科クリニック、きじま歯科、
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは国道45号線から西に100メートル程入った田、畑、住宅に囲まれた静かな所に位置している。法人の本部も近くにあり、介護サービスを支援する上で何かと便利な存在となっている。敬老会、盆踊り、小中学校の運動会、お祭りなど地域の行事に積極的に参加している。ホームの夏祭りには櫓を組み、焼きソバ、綿菓子を作り近所のおばあさんや子供たちにも声をかけ盛大に行われている。職員が大事にしているケアは、入居者の立場になって仕事をする事、いつまでも健康でいられるようなケアをすることである。「暮らし楽しく、心豊かに」をモットーに「いつまでもその人らしく」「自分で考えた、決めた、やった」を日ごろより口にし、職員も共有し実践に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題の1、運営理念の啓発(ホーム便りの発行)2、介護計画の見直し(3ヶ月に1回の定期的な見直し)3、相談苦情受付の明示(市役所、国保連の重要事項説明書への明示)4、入居者の金銭管理(月に1回の書面による報告)に改善計画を立て取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を職員全員に交付し、検討してもらった後ミーティングを開き、個々の意見を聞きまとめている。見出された課題について改善計画を立てその実施に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成18年度は2回開催されたが、19年度は開催されていない。広く意見を求めることがサービスの向上につながると思われるので早急の実施をお願いしたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関前に苦情相談の受付を明示し、家族の来訪時には聞くようにしているが、苦情は今までない。家族会は負担をかけないようにとの配慮から作っていない。重要事項説明書に国保連と市役所の相談窓口と電話番号が明示されていないので明示していただきたい。また意見、不満、苦情等を話し易いように家族会を設けるようお願いしたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>敬老会、盆踊り、小中学校の運動会、お祭りなど地域の行事に積極的に参加している。また、中学生の職場体験もあり、終了後も遊びに来てくれる。事業所主催の夏祭りには、近所のおばあさんや子供たち20~30名が集まってにぎやかに行われる。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に基づいて作られた事業所独自の理念である。まだ見直しはしていないが、地域密着型の意義を考え、地域との関係性強化をうたった理念を年度替りに考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は日ごろから理念を口にし、職員にも浸透している。日々のサービス提供場面において理念が活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会、盆踊り、小中学校の運動会、お祭りなど地域の行事に積極的に参加している。また、中学生の職場体験もあり、終了後も遊びに来てくれる。事業所主催の夏祭りには、近所のおばあさんや子供たち20～30名が集まってにぎやかに行われる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員全員に交付し、検討してもらった後ミーティングを開き、個々の意見を聞き、まとめている。前回外部評価で見出された課題についても改善計画を立てその実施に取り組んでいるが、改善されていないものもある。	○	今回の自己評価も含め介護計画等改善計画をたて、一つひとつ確実に改善されるように取り組んでいただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成18年度は2回開催したが、平成19年度は開催していない。	○	広く意見を求めることがサービスの向上につながると思われるので早急の実施することをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護認定審査会の役員をしていることもあり、日常的に連携をとっており、相談や話し合いだけでなく積極的にホームの理解を進める働きかけをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には暮らしぶりや健康状態などを伝えている。金銭管理については定期的に報告しているが、月1回程度の報告にはなっていない。	○	「ホーム便り」を発行し、暮らしぶりを伝えると共に職員の異動や金銭管理の報告も月に1回書面での報告をお願いしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に苦情相談の受付を明示し、来訪時には聞くようにしているが、苦情は今までにない。家族会は負担をかけないようにとの配慮から作っていない。重要事項説明書に国保連と市役所の相談窓口と電話番号が掲載されていない。	○	重要事項説明書に国保連と市役所の相談窓口と電話番号を掲載していただきたい。また意見、不満、苦情等を話し易いように家族会を設けるようお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係を重視し、異動は最小限に抑えるように働きかけをしている。異動があったときには勤務を交換し、慣れの時間を2週間ぐらい取り、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画がある。気仙沼・本吉地区介護サービス法人連絡協議会や県の認知症研修など外部研修に参加している。終了後はミーティング(月2回)で報告をしている。また資格取得者に対してはシフトの変更や講習会を開いたり、実技等で支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学会(交流会)をしたり、市内のグループホーム部会でコミュニケーションを図るなど情報交換や勉強会をし、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居開始前に職員が会いに行ったり、事業所に来てもらい短時間でも過ごすなど、入居者が職員やサービスの場に徐々になじみながら本格的な入居に移っていくように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、入居者の得意分野で力を発揮してもらい、廊下のモップがけ、玄関の水洗い、洗車、洗濯物の干し・たたみ、食材の買い物、料理の味付け等をしてもらっている。普段から入居者に教えてもらう場面が多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを把握するために入居者の発する言葉に特に注意し、その奥に潜んでいる意味をとらえるようにしている。また本人にとって何処で誰とどのように暮らすことが最良なのかを家族を交えて検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの関わりの中で、本人からの日々の気付き、家族の思い、医師の意見等を適切に反映させるように全職員によるミーティング等で話し合っている。出来上がった計画は家族に説明し、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体状況の変化に応じてその都度見直しをしているが、定期的な見直しは半年に1回となっている。	○	月に1度は、介護計画について入居者や家族の意向を確認し、最低でも3ヶ月に1回の見直しにすようお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な通院は家族にお願いしているが、医師への説明が必要な時や家族が忙しくて一緒にいかれないときは職員が同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常にはかかりつけ医を利用しているが、緊急の時には協力医療機関の医師に診てもらっている。かかりつけ医と協力医療機関の医師との関係はうまくいっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた場合の対応の仕方について事業所としての指針があるが、今まで事例はない。終末期を迎えた場合の希望については定期的に聞き取りをしているが、意思確認書の作成には至っていない。	○	早い段階から本人や家族、かかりつけ医と話し合い事業所が対応できるケアについて説明し、意思確認書を作成することを願いたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時、個人情報の取り扱いの勉強会を開き守秘義務の誓約書を取っている。ちゃん付けしたり、自分がいやなことは入居者にも言わないようにするなど言葉づかいについては気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のリズムに合わせて起床、入浴、食事時間を本人のペースで行えるよう柔軟に対応している。朝遅く起きて来た人には食事時間をずらすとか自分の部屋で食べてもらっている。入浴については、ほとんどの人が夕食の後だが介助の必要な方には夕食前にお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの食材で栄養士が献立を作り、食事は職員も一緒に同じ食卓を囲み、同じものを食べて和やかな雰囲気、さりげないサポートをしている。買い物、料理、食事の後片付け等一緒になって行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	これまでの生活習慣や好み、希望に合わせて毎日、何時でも入浴できるようにしている。たまに温泉に行ったり、公衆浴場に行ったり、ゆず湯、入浴剤などで楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	荷物運び、食事の準備・片付け、洗濯物、干し・たたみ、ウクレレ、コーラス、編み物などそれぞれが役割を持ち楽しみごとを作り出せるよう働きかけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩、買い物、あまり歩けない人にはベランダまで出してもらう等している。4月からは毎月1回ドライブ(花見、海浜、紅葉狩り、芋煮会)などに出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。外出しようとする入居者はほとんど動きでわかるので見守りや声がけをして対応している。もし一人で外出しているのを見かけた時には近所の人に連絡してもらおうようお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成している。避難通路の確保、消火器等設備の点検など定期的に行っており、法人の実施する消火訓練にも参加しているが事業所としての避難訓練は実施していない。	○	地域住民の協力も得た避難訓練(夜間想定を含め)を年1回以上実施することをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量のチェック表を作成している。職員の中に栄養士がいて栄養バランスやカロリーチェックは週単位で点検してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回指摘された「職員の声かけが大きい」は改善されている。朝起きるとすぐに空気の入換えを行っている。換気扇やエアコン、床暖房、加湿器などで温・湿度の管理が行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	神棚、たんす、テレビ、冷蔵庫、机、ファミコン、写真、線香立てなど馴染みの物を持ってきて居心地のよい居室となっている。		